

令和 3 年度
日本歯科大学歯学会
第 7 回ウィンターミーティング

プログラム・抄録集



令和 3 年 12 月 11 日 (土)

オンライン

日本歯科大学歯学会

第7回ウィンターミーティング プログラム・抄録集

目次

参加者へのご案内	
プログラム	
基調講演	
シンポジウム	

参加者へのご案内

参加者の皆様へ

1. COVID-19 による感染症拡大防止のため、Online のみでの開催となります。
2. 聴講時は、参加登録時にご登録のメールアドレス宛にお送りした URL（Zoom ウェビナー）から必須事項をご登録の上、ログインしてください。
3. 発表者の著作権保護のため、講演動画の録画・録音・撮影（スクリーンショットを含む）は禁止とさせていただきます。参加者の皆様が使用する PC・タブレット等の環境、インターネット回線、配信プラットフォームの状況により正常に視聴できないことがある場合、本会は責任を負いません。
4. 本ウィンターミーティングは歯学会会員限定です。公共性が高く、聴講者以外の部外者が閲覧できる環境は避けてください。不特定者が閲覧しているまたは、その恐れがある環境と本会が判断した場合は退室していただく場合がございます。
5. 講師が使用されるスライド資料のダウンロード等での配布予定は、ございませんのでご了承ください。
6. 本日の研修会の内容は、2022 年 1 月以降に、歯学会ホームページ会員専用サイトで、期間限定のオンデマンド配信を予定しております。近日中に詳細を歯学会ホームページにアップする予定です。奮ってご視聴ください。
7. 本大会は日歯生涯研修の受講研修として単位が取得できます。単位認定は Zoom ウェビナーへのログイン、ログアウトの記録をもとに行います。オンデマンド配信でのご視聴の際は、視聴後に表示される視聴完了申請フォームを送信下さい。
8. お困りの際はチャット機能にて事務局（ホスト）までお問い合わせください。

プログラム

12:45 入室開始

13:00 歯学会会長挨拶

13:05～14:05 基調講演

オンライン医療の現状と展望～歯科診療とのつながり～

講師：稲生 優海（いのお ゆみ）

座長：新潟生命歯学部 口腔外科学講座 田中 彰

14:10～16:00 シンポジウム「ウィズコロナにおけるオンライン歯科診療のいま」

1 オンライン診療と摂食嚥下リハビリテーション

講師：古屋 裕康

2 ICT を活用した訪問歯科診療

講師：赤泊 圭太

3 乳癌手術症例に対するバーチャルスライドシステムを用いた遠隔術中迅速病理診断

講師：辺見 卓男

座長：附属病院 放射線・病理診断科 柳下寿郎

新潟病院 訪問歯科口腔ケア科 白野美和

基調講演



オンライン医療の現状と展望～歯科診療とのつながり～

講師：稲生 優海（いのお ゆみ）

株式会社メドレー 事業連携推進室 / 医師・医学博士
横浜市立大学医学部医学教育学教室 客員研究員

2015 年 8 月に厚生労働省が発表した通知により、日常診療においてオンライン診療が可能となった。2018 年の診療報酬改定におけるオンライン診療料の新設や、厚生労働省による「オンライン診療の適切な実施に関する指針」の策定により、オンライン診療は外来、入院、訪問診療に次ぐ「第 4 の診療形態」として注目を集めるようになったが、制度的な課題から普及には至らない状況が続いていた。

2020 年 4 月、新型コロナウイルスの感染拡大を受けての時限的・特例的取扱いとして厚生労働省から発出された通知により、対象疾患等の制限なく、初診からオンライン診療が許容されるようになったことで、オンライン診療は活用を場を広げた。特例措置終了後のあり方については、2021 年 11 月現在も議論が続いている。

本発表では、オンライン診療に関連する制度の変遷や最新の国の動向、さらにオンライン診療を活用する歯科医院での事例をふまえ、今後の展望について紹介する。

2009 年 横浜市立大学医学部卒業

2018 年 横浜市立大学大学院医学研究科卒業

初期臨床研修終了後、消化器内科医として横浜労災病院、横浜市立大学附属病院等で臨床業務に従事。
学位取得後、ヤンセンファーマ株式会社に就職し、治験責任医師として臨床開発業務に従事。

2020 年 現職

アカデミアや企業との事業連携に関わる。現在も非常勤で臨床業務を継続。また、横浜市立大学の客員研究員として臨床研究を中心に活動している。



1 オンライン診療と摂食嚥下リハビリテーション

古屋 裕康

日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック

日本歯科大学附属病院 口腔リハビリテーション科

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)感染拡大により、感染リスクを考慮した診療形態としてオンライン診療が注目された。歯科領域におけるオンライン診療は原則として処方を伴う診療行為に限定されており、現状ではオンライン診療での摂食嚥下リハビリテーションは保険診療として認められていないが、機能訓練や食事指導を行うことが多いため有用性は高いと考えられる。本発表では、COVID-19 感染蔓延下におけるオンライン診療の有用性の検討と普及への課題点について報告する。

オンライン診療の有用性については、高齢患者と小児患者においてそれぞれ緊急事態宣言下実際にオンライン診療を行い、対面診療と比較検討した。オンライン診療による摂食嚥下リハビリテーションは対面診療と同様に、摂食機能の向上や摂食状況の改善をもたらした。高齢患者においては、オンライン診療により摂食状況が改善した症例は患者側に医療職や介護職の同席を伴う「Doctor to Patient with Nurse (D to P with N)」であった。「Doctor to patient (D to P)」の診療形態よりもフィジカルアセスメントの補完が可能となり、より積極的な指導が出来たためと考えられる。小児患者においても、外来診療と同等の摂食機能獲得効果を認め(傾向スコアマッチング法にて対象者を抽出、 $p < 0.01$)、さらに呼吸器疾患などリスクの高い患者だけでなく身体障害が軽度の患者においても多くの活用がみられた。感染蔓延期のみならず平時においても対面診療を補完する診療形態として有用と考えられる。アンケート形式での意識調査では、世代毎にオンライン診療に対する認識の差がみられた。高齢患者は使用機器の接続や機器操作について不安と感じていることが多く、小児患者では診断の信頼性に不安を感じながらもオンライン診療に期待している傾向がみられた。世代毎にオンライン診療に対して不安を感じている点が異なり、各世代に応じたオンライン診療推進対策が必要であることが示唆された。感染リスクを考慮した診療形態としてオンライン診療での摂食嚥下リハビリテーションは有用であるが、推進していくにあたり課題点も見つかった。

2011 年 3 月 日本歯科大学生命歯学部 卒業

2016 年 3 月 日本歯科大学大学院生命歯学研究科 臨床口腔機能学講座 修了 博士(歯学)

2016 年 4 月 日本歯科大学附属病院口腔リハビリテーション科 非常勤歯科医師

2017 年 4 月 日本歯科大学附属病院口腔リハビリテーション科 助教



2 ICT を活用した訪問歯科診療

赤泊 圭太

日本歯科大学新潟病院 訪問歯科口腔ケア科

世界的に猛威を振るう COVID-19 は、医療提供体制に甚大な影響を及ぼす一方で、情報通信技術（以下 ICT）の有用性が期待され、ICT が急速に普及しつつあります。従来、歯科オンライン診療はその特殊性から据え置かれた経緯がありますが、今般の COVID-19 の感染拡大を受けて、厚生労働省は電話や情報通信機器を用いたオンライン診療について、時限的・特例的取り扱いを歯科診療においても認めることを決定しました。当科では、ICT を用いた訪問歯科診療の可能性を検証するとともに、ポストコロナでの恒久化を目指し取り組んでいます。特に新潟県の中山間地域では、人口減少や無歯科医地域、歯科医師の高齢化による需給問題などが深刻化する地域もあり、コロナに関係なく ICT の活用が期待される面も見受けられます。

施設職員を対象としたアンケートでは約 6 割が歯科オンライン診療への興味を示し、なかでも受診勧奨や口腔内の症状確認を依頼したいとの声が多く寄せられました。一方、機器操作への不安や対面診療でないことへの不安の声も聞かれ、オンライン診療における課題もみられます。特に、歯性疾患への対応や補綴治療においては、治療機材の携行が必須であり、オンラインのみでの完遂は不可能といえます。しかし、摂食嚥下障害患者に対する口腔リハビリテーション指導や低栄養患者に対する栄養指導、歯科衛生士による口腔衛生指導などは、訪問歯科診療において高いニーズがあり、現地に専門職が訪問せずとも、オンラインで指導を行うことが可能となり、患者や家族にとって有益であることが示唆されます。また、訪問先で口腔腫瘍などが疑われる事例や摂食嚥下障害を有する患者などに遭遇した場合、専門医からの助言を目的に、訪問先から高次医療機関と直接繋がることで、より専門性の高い指導が行なえ、地域開業歯科医師の後方支援の観点からも、不安解消の一助となることが期待されました。さらに、コロナ禍では各種カンファレンスの開催中止も相次ぎ、多職種連携の障壁にもなっています。とりわけ訪問対象患者は認知機能低下などで、自己決定能力を欠く場合も多く、患者家族や他職種との連携が不可欠であり、患者を取り巻く社会的資源の活用のためにもオンラインカンファレンスの開催が有益と思われました。歯科オンライン診療には多くの課題もありますが、訪問歯科診療における ICT の有用性は高いと思われ、今後も建設的な検証を続けていきたいと考えています。

2008 年 3 月 日本歯科大学新潟生命歯学部卒業（第 97 回卒）

2009 年 4 月 日本歯科大学大学院新潟生命歯学研究科 口腔外科学講座 大学院生

2013 年 4 月 日本歯科大学新潟病院総合診療科 非常勤歯科医師

2014 年 4 月 日本歯科大学新潟病院訪問歯科口腔ケア科 助教

2018 年 4 月 日本歯科大学新潟短期大学 講師併任

2019 年 4 月 日本歯科大学新潟病院訪問歯科口腔ケア科 講師



3 乳癌手術症例に対するバーチャルスライドシステムを用いた遠隔術中迅速病理診断

辺見 卓男

日本歯科大学附属病院 放射線・病理診断科

2019 年 4 月に附属病院に乳腺・内分泌外科が開設された。稼働に伴い、病理、放射線、臨床検査の各部門では、これまでの口腔疾患に対する検査に加えて新たに乳腺および甲状腺を対象とした検査も担当することとなり、設備と人員の整備拡充をおこなってきている。乳腺、甲状腺の病理診断では、日本病理学会の規定により口腔病理医による組織所見および診断は医師の病理医が最終確認し署名をしたのちに報告をする必要があるため、防衛医大病態病理学教室に協力を仰ぎ、病理標本を双方向的に送付し業務を遂行している。病理検査の一つに術中迅速病理診断がある。手術の最中に切除断端への腫瘍性病変の露出有無、リンパ節への腫瘍の転移有無を組織学的に確認する検査で、結果により追加切除など術式変更が必要な場合があり診断の確実性ととも迅速性が求められる。一般に、検体提出から HE 染色凍結組織切片の作製まで約 10～15 分、術者への結果報告まで約 30 分程度で終わることが望ましいとされる。われわれは従来よりバーチャルスライドシステムを研究などに導入していたことから、これを用いて凍結切片を電子データ化し、インターネットを介して防衛医大へ送付、電話で診断結果を得る方法を発案した。これまでに画像データの容量が大きいことに起因する送付トラブルなどを経験したが、現在では最大で 1 日 3 件の迅速検査に対応できる体制を構築している。所要時間については、通常の迅速検査にはないバーチャルスライド撮影の時間があるため検体提出から報告まで 1 時間程度となっており、すこしでも時間を短縮するため様々な工夫をおこなっているところである。

2012 年 日本歯科大学 生命歯学部 卒業

2012 年 公益財団法人 東京都保健医療公社 多摩北部医療センター 研修医

2013 年 日本歯科大学大学院 生命歯学研究科 入学

2014 年 2 月～2017 年 3 月 東京女子医科大学 医学部 第 2 病理学教室 非常勤研究員

2017 年 日本歯科大学大学院 生命歯学研究科 修了

2017 年 日本歯科大学附属病院 歯科放射線・口腔病理診断科 助教

2018 年 2 月～ 東京女子医科大学病院 病理診断科 非常勤講師

2020 年 7 月～ 国立がん研究センター中央病院 病理診断科 任意研修医

令和３年度日本歯科大学歯学会
第７回ウィンターミーティング
準備委員会

歯学会会長 志賀 博
大 会 長 田中 彰 （事業部）
準備委員長 吉岡裕雄 （事業部）
準備 委員 柳下寿郎（事業部）、加藤雄一（事業部）、加藤智崇（事業部）、
新井恭子（事業部）、佐久間要（事業部）